

体罰・不適切な指導・ハラスメント防止のためのチェックシート
(教職員用)

No.	チェック項目	チェック	備考(改善点等)
1	体罰・不適切な指導・ハラスメントは、児童生徒の人格を傷つけ、人権を侵害する行為であることを認識している。		
2	「児童生徒のために」「指導方法の一つである」等の理由で、体罰や人格を否定するような発言等の不適切な指導・ハラスメントを正当化することはない。		
3	児童生徒や保護者との信頼関係があれば、「げんこつくらい」「1回叩く程度は大丈夫だ」「この程度のことなら」というような思い込みはしていない。		
4	児童生徒の話をじっくり聴いたり、学習内容を理解するまで待ったりするなど、常に心にゆとりをもった対応や指導を行っている。		
5	児童生徒に指導したことが、自分の思うように伝わらない場合にも、感情的にならず、冷静に児童生徒に接することができている。		
6	児童生徒への対応を、特定の教職員に任せきりにせず、共通理解に基づき、同じ対応を行っている。		
7	生徒指導の場面で、単独行動を行うことなく、常に他の教職員との連携を意識して、チームによる指導を心がけている。		
8	児童生徒の問題行動を現象面だけ見て判断するのではなく、家庭環境等の背景や障害特性について理解した上で、それに応じた適切な内容や方法で指導を行っている。		
9	体罰・不適切な指導・ハラスメントを行っている同僚を目撃した場合は、制止したり、注意したりすることができている。		
10	自分の指導がうまくいかない時、児童生徒のせいにすることなく、自らの指導の在り方を振り返り、その中から課題を見つけ出して、改善しようとしている。		
11	養護教諭等やスクールカウンセラーなど多くの教職員や外部の専門機関の人々と連携し、その意見も聞きながら、多面的に児童生徒を捉えようとしている。		

12	児童生徒や保護者から、他の教職員の体罰・不適切な指導・ハラスメントについての相談を受けて、そのままにしていることはない。		
13	体罰・不適切な指導・ハラスメントを行ったり見聞きした場合は、速やかに管理職に報告・連絡・相談することなどの対応について承知している。		
14	部活動において、試合やコンクール等に勝つことや自分のメンツよりも、児童生徒の心身の成長を最優先に考え、過度の負荷をかけた練習を強いたり、人格を否定するような発言等を行うことはない。		
15	部活動において、最新の研究成果を踏まえた科学的な指導や、児童生徒の良さを認め、意欲や自発性を引き出す指導を行っている。		
16	体罰・不適切な指導・ハラスメントによらない指導の在り方について、コンプライアンス研修などを活用し、定期的に全教職員で研修を受講している。		
17	児童生徒に対して、体罰・不適切な指導・ハラスメントが疑われる行為を受けた時や、目撃したり、相談を受けた時には、相談窓口等に相談するよう指導している。		